|  |  |
| --- | --- |
| 第６学年　指導者　（　　　）（　　　）（　　　） | |
| 教科「おおたの未来づくり」40時間  単元名  「伝えよう、矢口の歴史、地域の良さ　未来につなげ商店街プロジェクト」 | 場所：6年各教室 |

１　単元の目標

　・商店街の方や動画を視聴する人の意識に立って動画を企画、制作するための内容的・方法的な知識・技能を身に着ける。

　・ICT技術を用いて商店街各店舗の魅力をより効果的に伝えるために試行錯誤をしながら動画を作成する活動を通じて、商店街が直面する問題や願いを解決する方法を考える。

　・安方商店街、矢口の渡商店街の人々と関わる経験を通して、商店街が直面する問題に対して何ができるかを主体的に考え、未来を創造しようとする態度を養う。

２　評価規準

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| Ｂ地域の創生 | コンセプト | ①　地元の商店街の方や動画を視聴する人の意識に立ったコンセプト設定の意味を理解し、それに必要な内容的・方法的な知識・技能を身に付けている。 | ①　地域の方の話を基に、情報を整理・分析し、地域創生動画のコンセプトを設定することができる。 | ①　コンセプトを設定するためという目的をもって講話をよく聞こうとしている。 |
| デザイン | ②　地元の商店街の方や動画を視聴する人に受け入れられる取組を企画するために必要な内容的・方法的な知識・技能を身に付けている。 | ②　コンセプトにあった動画デザインを地域性・公共性・持続可能性などを踏まえて考えることができる。 | ②　地域の方のフィードバックを受け止め、企画案の改善や必要な情報収集に協働的に取り組もうとしている。 |
| クリエイション | ③　取材や撮影した動画を分かりやすく発信するために必要な内容的・方法的な知識・技能を身に付けている。 | ③　調査の結果や、商店街の関係者からのフィードバック等を生かし、試行錯誤を重ね、内容を改善することができる。 | ③　動画の改善に向けて、自分と他者のよさを生かして分担するなど、協働的に取り組み、取組を振り返って価値や改善点を見いだそうとしている。 |
| ICTの活用 | ④　ICTを活用した情報収集・スライド作成・動画編集・調査・統計資料作成に関する知識・技能を身に付けている。 | ④　効率性や分かりやすさ、地域性、公共性、持続可能性等の視点をもってICTを効果的に活用している。 | ④　モラルや他者意識をもってICTを活用し、ICTの特性を生かした形で他者との協働や振り返り、企画や取り組みの改善のために活用しようとしている。 |

３　単元について

（１）単元設定の理由

　　本校の学区域内では「安方商店街」「矢口の渡商店街」という2つの商店街がある。共に歴史が深く、矢口小学校の児童を見守り、年中行事等様々な場面で深く関わり合っている。

地域における商店街の役割は、地域住民への身近な購買機会の提供だけではなく、治安や防犯への協力、地域の賑わいの創出といった、地域全体の安全、活性と多岐にわたる。しかし、近年、日本全国における商店街は様々な問題を抱えている。中小企業庁による令和３年度における商店街実態調査によると、商店街の来客数は前回調査（平成30年度）に比べ「減った」との回答が13.7％伸びた。商店街として最も多い問題としては、経営者の高齢化による後継者問題（72.7％）、集客力が高い・話題性のある店舗・業種が少ない（30.5％）が挙げられる。つまり、商店街に関わろうとする若い年代が減り、商店街全体の集客力が低下している。

　　本単元では、児童がもつ伸び伸びとした感性や主体性に基づいたICT活用により、商店街の各店舗のアピール動画を作ることで、安方商店街、矢口の渡商店街の両商店街を活性化させようとする試みである。

　　また、児童が１年間かけて店舗に関わる活動を通し、店舗が抱える問題を「自分事」として考えることが重要である。動画作成を通して地域の方々の願いをどのように反映し、問題を解決していけばよいか主体的に学習に取り組む態度もつ児童を育成したいとの願いを込めて、本単元を設定した。

（２）学習過程

「コンセプト」では、矢口の渡商店街、安方商店街の両会長に来校いただき、商店街の現状や児童への願いを中心に講話を行っていただく。その後、実際に商店街に足を運び、店の人と交流を重ねながら、地域や店舗にとってより魅力的な動画にするためにはどのようにすればよいか考える。また、企画書を製作する活動を通して、情報を整理し、分析し、プレゼンテーションとして効果的に人に伝えるための技術を重点的に指導する。

「デザイン」では、実際に動画を作る活動を通して、各店舗のよさや魅力を効果的に作るために試行錯誤する。このことによって、よりよい未来社会に向けて動画のデザインを、地域性、公共性、持続可能性等を踏まえて試行錯誤することを重点的に指導する。

「クリエイション」では、動画を発信する活動を通して、より効果的に動画を提示するにはどのような方法をとればいいか、考えることを重点的に指導する。

（３）授業時数を削減する教科等の時数と本単元で補完する内容

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 教科名 | 授業時数 | 本単元で補完する内容（総削減時数25時間） |
| 国語 | 9 | ・目的や意図に応じて、日常に応じて日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討すること。  ・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。[Ａ話すこと・聞くこと] |
| 図画工作 | 4 | ・形や色、材料の特徴、構成の美しさを感じながら表したい主題をどのように表すか考えること。[Ａ表現（１）１] |
| 外国語 | 4 | ・相手に伝えるなどの目的をもって、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。[オ書くこと（ウ）] |
| 社会 | 4 | ・政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。[（１）（イ）] |
| 家庭科 | 4 | ・日常生活における様々な問題について、地域の人々と協力し、健康・快適・安全・持続可能な社会の構築を視点として解決方法を考えること。  家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え、工夫すること[Ａ家族・家庭生活（３）イ] |

４　児童の実態

　　活動ではまなびポケットを活用してアンケートをとったり、スライドを作成したりと、日常的にICTを活用している。また、学習の隙間時間にはタイピング学習に繰り返し取り組み、自主的に力を伸ばしている。

　　授業内では、「文房具のように使おう」を合言葉に、児童が使いたい時にICT機器を主体的に使っていく態度を育成している。問題が発生することも多いが、その度にどのようにすれば、ICTを便利な道具として活用できるか、クラス内で話合いを多く行っている。

どんな物事も前向きに取り入れられる児童が多く、児童がやりたいと思ったことをグループで支え合い、どのように解決すればよいのか考えることができる。しかし、その一方で、問題解決に対して何かをやり遂げたという経験はまだ少なく、成功のイメージに向けて努力を重ねることができる児童は少ない。児童が成功のイメージをもちながら、その成功のためにはどのような活動が必要なのか、グループで話し合いながら計画を立てていく力を育成したい。

５　指導の手立て

（１）問題解決の見通し、学習ストーリー、ゴールイメージをもたせることに関して

昨年度は、本校の特色である校庭の広い田んぼを生かしたお米づくりを活用して、米菓で有名な新潟県に本社がある亀田製菓と連携してお米の特徴と大田区の特色を取り入れた商品開発に関わる学習をした。

児童の振り返りの中で、「次は地元の商店街と連携して何かできることはないか」という意見が挙がった。コロナ禍で目に見えて客足が遠のいてきている商店街の実態に対して、「自分たちの力で商店街の活気を取り戻したい」という思いが募った。そこで「おおたの未来づくり」の目標に沿って、商店街のお店をアピールする動画を作成して、商店街を盛り上げようという単元のゴールイメージを設定した。

　　また、単元総時間から逆算して毎時間ごとのめあてや学習計画を児童に設定させることで大きな見通しをもたせた。そして、自分たちがその時間にできることを班ごとに確認してから活動を始めさせ、小さな見通しをもたせることで、より主体的に活動に取り組めるようにした。

（２）交流の仕方の工夫に関して

　　班の一部児童が他の班へ移動し、情報交換や情報収集することを通して、自分の班と他の班の良いところをお互いに共有しあえるようにした。その中で、それぞれの班活動が良い意味で競争の原理を生み出し、自分たちにはないアイデアを見つけ合えるような交流を行った。

（３）各企業との事前の打合せ

①矢口の渡商店街、安方商店街

商店街会長に向けて年度初めに対面型ミーティングを行い、要綱やスケジュールを説明した。

　　その後、各店舗に向けて教員が連携の挨拶を行い、その後は児童が連携各店舗に赴き、文書配布や日程の確認等を行った。

　②日本工学院専門学校

　　オンラインミーティングを行い、要綱の確認や双方のすり合わせを行った。

　　その後は、メールで日程等の詳細なやり取りを行った。

（４）ICT等の活用

・まなびポケット…児童同士の情報共有、資料の整理、意見交換を総合的に行う。

・Canva…スライド、動画、ポスターや名刺の作成を行う。

・Googleドキュメント…資料や台本の作成を行う。

・Googleスプレッドシート…計算や表の作成を行う。

・スクールタクト…各授業の計画や、振り返りをまとめるノートの作成を行う。

※Canvaの使用に関して

　Canvaは、無料で使用できるオンラインのグラフィックデザインツールである。動画作成のみならず、様々な活用機能があるため、使用に関しては慎重に行う必要がある。大田区教育委員会の導入協議では、原則的に児童に使用させることを認めていない。本校は、本ツールの使用に関する課題点を含めて研究することを目的として、限定的かつ試験的に使用している。

６　指導計画（全40時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習過程 | 時 | 〇主な学習活動　★指導の手だて | ◆評価規準【観点】  （方法） |
| コンセプト | １～３ | 〇今年度どのような活動を行いたいか見通しをもつ。  ★昨年度の活動を振り返り、今年度自分たちがどんな力を生かしたいか考える。 | ◆【主】①  　（発言） |
| ４ | 〇商店街の方々から大田区の商店街の現状を聞く。  ★矢口の渡商店街、安方商店街両会長から、各商店街の現状や課題を聞き、自分たちにできることを考える。 | ◆【主】①  　（スクールタクト・  発言）  ◆【思】①  　（スクールタクト） |
| ５６ | 〇商店街連携店舗に行き、商店街のよさや店舗の魅力や願いについて知り、資料を集める。  ★商店街各店舗に事前にアポイントをとり、質問したい内容や知りたいことをまとめてから店舗に赴く。 | ◆【知】①  　（スクールタクト）  ◆【主】④  　（スクールタクト） |
| デザイン | ７～８ | 〇各店舗の願いをもとに自分たちにできることを考え、プロジェクト企画書を作る。  ★現状分析、企画の目的、企画の具体的な内容、スケジュールをスクールタクトに記入しまとめる。 | ◆【思】②  　（スクールタクト）  ◆【知】②  　（スクールタクト） |
| ９～11 | 〇商店街の方々に向けたプロジェクトプレゼンテーションやデモムービーを作る。  ★googleのスライド機能やCanvaを使い、テンプレートを活用して、短時間で効果的に企画の主旨を説明するプレゼンテーションやデモムービーを作る。 | ◆【知】②  　（作品）  ◆【知】④  　（作品）  ◆【思】④  　（作品） |
| 12 | 〇商店街の方々に企画提案プレゼンテーションを行う。  ★商店街の方々にプレゼンテーションを行い、より願いにそった形にするためのフィードバックを行ってもらう。  〇フィードバックをもとに企画書を修正する。 | ◆【主】②  　（スクールタクト） |
| クリエイション | 1314 | 〇商店街へ取材を行い、動画素材を集める  ★クロームブックを持ち、商店街に行き商店街の人へのインタビューや、店舗の様子、特色などの動画素材を集める。 | ◆【主】③  　（スクールタクト・  発言） |
| 15～16 | 〇Canvaを活用し動画編集を行う。  ★児童間で分野や動画のテーマ箇所により分担を行い、効率的に作業を行う。 | ◆【知】③  　（作品）  ◆【主】③  　（スクールタクト） |
| 17～19 | 〇動画編集の指導を受ける。  ★日本工学院専門学校の方から、リテラシーや、より効果的な動画の作り方について講話していただく。 | ◆【主】④  　（スクールタクト） |
| 20～25 | 〇Canvaを活用し動画の修正を行う。  ★外部講師の指導をもとに、動画の編集やさらなる修正を行う。適宜交流の時間を設け、他の班の良いアイデアを加え、よりよいものに仕上げていく。  ★動画はある程度完成し次第、商店街の方のところに伺い、フィードバックをいただく。 | ◆【知】④  　（作品）  ◆【思】③ ④  　（作品）  ◆【主】③  　（スクールタクト） |
| 26　１組 | 〇クラスの友達に向けて動画を見せ、フィードバックを行いあう。  ★「商店街の人の願いを実現するためにはどうすればよいか」  「より動画を効果的に見せるためにはどうすればよいか」  の二点に絞り、フィードバックを行う。 | ◆【知】③  　（作品）  ◆【思】④  　（作品）  ◆【主】③  　（スクールタクト） |
| 27　３組 | 〇フィードバックをもとに動画を修正する。  ★動画の修正を行うとともに、当初の目的である、各店舗の願いを実現する動画に仕上がっているか確認を行う。 | ◆【知】④  　（作品）  ◆【主】③  　（スクールタクト） |
| 28～33　２組  (28) | 〇動画の公開方法を考える。  ★各店舗の特色や、商店街の特色を踏まえ、動画をどのように公開すれば、より多くの人の目に留まり、願いを実現することができるかを考える。 | ◆【思】④  　（作品）  ◆【主】④  　（スクールタクト） |
| 34～36 | 〇動画を地域で公開する。  ★地域への感謝の気持ちを忘れず、各店舗の現状に沿った形で動画の公開を行う。その際、二次元コードやテンプレートを活用し、より多くの人に情報を公開できるよう工夫する。 | ◆【知】③  　（作品）  ◆【主】④  　（スクールタクト） |
| 37～40 | 〇最終フィードバックをもらい、授業のまとめを行う。  ★商店街の方との関わりの中で、地域に対する愛着の深まりや、試行錯誤して地域創生をやり遂げることの喜びを自覚する。 | ◆【知】③  　（作品）  ◆【主】④  　（スクールタクト） |

７　本時の指導計画

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ６年１組（全40時間中の第26時） | | 場所：６年１組 | |
| 目標：動画発表会を行い、動画の内容がより相手に伝わるようにするには、どのようにすればいいか考え、発表者に伝えることができる。 | | | |
|  | 〇主な学習活動 ・予想される児童の反応 | | ◆評価規準【観点】（方法）  ★指導の手だて |
| 導入 | 〇本時の学習の流れを確認し、学習計画を立ててまなびポケットに入力する。  動画発表会を行い、動画をより良くするために、気付いたことを伝え合おう。 | | ★児童から引き出したキーワードを基に本時のめあてを設定する。 |
| 展開 | 〇司会の児童が中心となり、班ごとに、動画の発表を行う。  〇フィードバックの視点を明確にする。  〇聴衆班は、発表班の動画を観て、より動画を効果的に見せるためにはどうすればよいか、より多くの人に見てもらうためにはどうすればよいか考え、フィードバック（助言）をスクールタクトに記入し発表する。  〇発表班は、友達からもらったフィードバック（助言）を、しっかり聴き、記録しておく。  ・～を～した方がよい。 ・～が～なのがよかった。 | | ◆【知】③（作品）  ★「商店街の人の願いを実現するためにはどうすればよいか」  「より動画を効果的に見せるためにはどうすればよいか」  の二点に絞り、フィードバックを行う。 |
| 振り返り | 〇班ごとに、友達からもらったフィードバックを確認し、次回は今回のフィードバックをもとに動画を修正すること、具体的にどのような修正を行うか、役割分担を確認し、スクールタクトに入力する。 | | ◆【主】③（スクールタクト） |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ６年３組　（全40時間中の第27時） | | 場所：６年３組 | |
| 目標：フィードバックをもとに、動画発表会で気付いたことを再確認し、動画の内容をより伝わりやすいようにするにはどうすればいいかを再考し、動画を修正することができる。 | | | |
|  | 〇主な学習活動　・予想される児童の反応 | | ◆評価規準【観点】（方法）  ★指導の手だて |
| 導入 | 〇本時の学習の流れを確認し、学習計画を立てて、スクールタクトに入力する。  動画発表会で気付いたことを再確認し、より伝わりやすいように動画を修正しよう。 | | ◆【主】③（スクールタクト）  ★児童から引き出したキーワードを基に本時のめあてを設定する。 |
| 展開 | 〇前時の視点2点を再確認する。  「商店街の人の願いを実現するためにはどうすればよいか」  「より動画を効果的に見せるためにはどうすればよいか」  のメモしたスクールタクトを確認する。  〇班の役割ごとに動画を修正する。  ・老若男女が動画を見て理解できるように字幕にルビを入れよう。  ・強調したい部分は画像にして尺を長く使おう。 | | ◆【思】④（作品）  ◆【知】④（作品）  ★動画の修正を行うとともに、当初の目的である、各店舗の願いを実現する動画に仕上がっているか確認を行う。 |
| 振り返り | 〇班ごとに修正した内容を確認し、次回は完成した動画の公開方法を考えることの見通しをもち、本時の振り返りをスクールタクトに入力する。 | | ◆【主】③（スクールタクト） |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ６年２組　（全40時間中の第28時） | | 場所：６年２組 | |
| 目標：地域や店舗の特徴を踏まえて、他者意識をもちながら、より効果的に動画を公開する方法を考えることができる。 | | | |
|  | 〇主な学習活動　・予想される児童の反応 | | ◆評価規準【観点】（方法）  ★指導の手だて |
| 導入 | 〇本時の学習の流れを確認し、学習計画を立てて、まなびポケットに入力する。  店舗や地域の特徴をもとに、動画をどのように公開すればよいか考えよう。 | | ★各店舗の特色や、商店街の特色を踏まえ、動画をどのように公開すれば、より多くの人の目に留まり、願いを実現することができるかを考える。  ★児童から引き出したキーワードを基に本時のめあてを設定する。 |
| 展開 | 〇店の人から聞き取った願いや、店舗や地域の特色を基に、どのような形で動画を公開すればよいか考え、話し合う。  ・机のメニューの近くに、ディスプレイを作って二次元コードを張り付ければ、食事を待っている間に見てもらえる。  〇児童同士で交流を行い、他の班のアイデアを取り入れる。  ・別の班がポスターを作る案を出していた。こちらの案の方が、自分たちの連携する店舗に合っているよ。 | | ◆【思】④（作品） |
| 振り返り | 〇今回で得た学びを確認し、次回は今回の計画をもとに、具体的にどのような行動を行うか、役割分担を確認し、スクールタクトに入力する。 | | ◆【主】④（スクールタクト） |

８　社会で活躍する人との連携

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 企業名 | 依頼内容 | 資質・能力の育成に期待できる効果 |
| 矢口渡商店街  安方商店街 | ・問題提起の講話  ・動画計画へのフィードバック  ・各店への取材許可 | ・実際の声を聞くことで、より実感をもって問題意識をもつことができる。  ・地域との交流を通し、地域への愛着を深める。 |
| 日本工学院専門学校  BBmedia株式会社 | ・動画作成における基礎知識のレクチャー | ・児童が伝えたい内容をより効果的に動画に反映する手法を獲得する。 |